

1. 津波被害

平成23年（2011年）3月11日（金）、午後2時46分に三陸沖で発生した東北地方太平洋沖地震は、数分後に大津波を引き起こしました。

この津波は、最大で9メートルを超える高さとなり、とくに東北地方の沿岸部では多くの人が津波にのまれ、たくさんの建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

津波は北海道から千葉県にかけて押し寄せましたが、とくに被害が大きかったのは、岩手県、宮城県、福島県の海岸沿いや川の近くです。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,824人（平成23年10月11日現在）とされていますが、その9割以上は津波によるものです（平成23年4月19日、警視庁発表）。

多くの人が家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

写真では、以下のような被害の様子がわかります。

- ・川が増水していく様子（1）～（6）（南三陸町、宮城県）
- ・港に津波が押し寄せてくる様子（1）～（4）（いわき市中之作旧港、福島県）
- ・家が流されている様子（陸前高田市、岩手県）
- ・津波にのみこまれ、車やがれきが流れている商店街（釜石市大町、岩手県）
- ・小学校まで流されてきた車のガソリンに引火して起きた火事（宮城県石巻市）
- ・津波のあとのまち（陸前高田市、岩手県／大船渡市、岩手県）
- ・10メートル（平野では世界最大級）の津波が押し寄せた名取市（宮城県）
- ・消火のために海上から放水している様子（平成23年3月12日0時ごろ、千葉県市原市の京葉臨海中部地区）（東京消防庁提供）
- ・建物の屋上で救助を待つ人たち（東京消防庁提供）
- ・消防防災ヘリコプターによる救出（東京消防庁提供）